



札幌部会(第12回)

日時: 2015年1月31日(土) 14:30-17:00

場所: Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム

参加者: 野間(同志社大)、杉田(千葉県立津田沼高)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌清田高)、松澤(札幌開成高)、志田(札幌稲雲高)、吉川(登別明日中等)、山下(札幌市立簾舞中)、兼間(札幌市立定山溪中)、竹内(浦河町立浦河第一中)、大上(道教大札幌校学部生)、山崎(北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

1. 新年ということもあり、はじめに自己紹介が行われた。
2. 野間先生より、4月から篠原先生が京都学園大の学長に就任する旨の報告とともに、東京部会レポート(新井先生作成)に基づき、年次大会の内容について説明が行われた。また、大阪部会での奥田先生の資料より、テスト問題からの授業づくりについて、方法論が紹介された。
3. 大上氏より、前回の李先生の発表を受けて作成した、「税金」に関する学習指導案について説明が行われた。これは、政府の財政機能を理解させる中で、「歳出シミュレーション」を取り入れて税金の分配について考えさせることをねらいとした授業案である。参加者からは、内容の精選が必要であり、それぞれの既得権益を踏まえたシミュレーションにすると、より現実に即した内容になるのではないかと意見が出された。
4. 兼間先生より、北海道社会科教育連盟において、ご自身が中心となって編集された「社会科板書型指導案 vol.3」が配布され、板書を通して①問いを生み、②基礎づけをし、③「見方や考え方」を導出する、という授業構造について説明が行われた。このことに関連して、現在、学習障害の生徒が増えてきており、書く力や読む力を育成する一例として、ビジョントレーニングの方法が紹介された。さらに、「高校入試問題2015年を考える」の資料より、秋田県の「需要・供給曲線」に関する問題で、高校で学ぶシフトが出題されていることや、千葉県の地理の問題でも、高校で学ぶ「三角グラフ」の読み取りが出題されていることについて、問題提起がなされた。
5. 川瀬先生より、昭和63年、平成3年、平成7年の北海道の高校入試問題と、今年度の「政治・経済」と「現代社会」のセンター試験問題が提示され、資料を読み取るスキルの育成について、問題提起がなされた。
6. 志田先生より、北海道高等学校政治経済研究会の学習会について案内[2月14日(土)13:30~15:30於北星学園大、内容は「最新の貧困問題」に関する講義及びゼミ形式の学習]があった。
7. 杉田先生より、「教材選択の5条件から考えた経済学習の可能性」について発表があった。杉田先生は、生徒や保護者の進学指導へのニーズや、機会費用の高い部活指導との兼ね合いから、いかに効率的に授業



設計をするかという問題意識を持っている。このため、30年近くに渡って、恩師である谷川彰英氏の唱える「教材選択の5条件」(①本質性、②具体性、③関心適合性、④関連性、⑤発展性)を重視してきた。そして、1年に1つの授業開発を目指していて、今年度は経済学の知見、主に小黒一正氏の言説を生かして、「世代間格差から社会保障を考える」という授業を開発している。杉田先生は従来から、「政治を知るには経済が必要であり、経済を知るには政治が必要である」という立場をとっており、この授業では、「厚生労働省や政治家は高齢者世代向けの政策を取っていることから、若い世代は選挙に行く必要がある」という着地点をとっている。発表後には、質疑応答が行われ、文庫本や新書などを用いて授業開発に結びつける方法について議論がなされた。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:5月16日(土)14:30~17:00。場所はSapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。議題は、参加者からの活動報告、その他。